

第2回パソコン入力スピード認定試験 練習問題 (20.2.9)
【日本語部門】

最近、ケータイ小説が中高生たちに話題となっている。これは、
主に携帯電話を使って、専用のサイトで公開したり、読まれたりする小説のことである。さらに、人気が出たものの中には、書籍化や映画化されたものもある。2007年、上半期における文芸部門の上位10作品のうち、ケータイ小説が半数を占めた。

以前から、ネット上にはオンライン小説が存在している。これを利用するにはパソコンが必要であり、所有していない場合は使用が制限された。また、所有していても通勤や通学などで利用することは困難であった。しかし、携帯電話の普及によって、場所や時間を選ばずに利用が可能となった。

内容は、恋愛の物語が多数を占め、歴史やSFなどの作品も増えている。読み手も書き手も、10～20代前半の女性たちが中心である。プロを目指す人もいるが、一般的には日常の生活を書き込む人も多い。書き込みがおこなわれると、読者たちは掲示板に感想を寄せてくる。この双方向性が大きな特徴だ。

文章は、すべて横書きで改行と会話から構成されている。1文は1～3行と短く、文と文との間に2行程度のスペースがあり、1行が12文字程度である。画面で一度に見られるのは、6～7行のため読みやすい。メール同様の手軽さと、ほとんどが無料のサイトであることが受けている。

ケータイ小説は、読書をしない世代にとっては、受け入れやすく支持されることが多い。また、文章を読むことによって、活字に対する興味をわかせたりすることが期待される。しかし、文章が短く稚拙な文章表現に慣れてしまうことにより、活字離れや表現力不足を悪化させるという指摘もある。

劇的なストーリーと携帯電話の組み合わせは、一つの新しい読書のスタイルとして、若者に広まった。しかし、同時に利用者によるモラルの低下が指摘され始めた。今後、携帯電話世代である中高生が、ネット上の知識や常識、責任のあり方を理解し、利用していくことを望みたい。

練習問題